



「井原デニム」は、
人を繋ぎ、
デニム愛を織りつつける

井原被服協同組合 井原デニムストア

事務所：岡山県井原市七日市町1-3 0866-62-0420
ストア：岡山県井原市七日市町9-4-5 070-5057-6070
<http://www.ibara-denim.com/>

井原被服協同組合所属企業 (50音順)
青木被服株式会社 / 株式会社アミボシェ / おのはなこ商店
株式会社ココファッション / スタジオM / タカヤ商事株式会社
株式会社トゥインガーズヒート / 株式会社西江デニム
丸栄タワー株式会社 / 丸丸株式会社 / 有限会社ミズタニ
モードプランニング タニモト / ヤマメン株式会社 / 有限会社渡辺被服

和製デニムのDNAを受け継ぎ、 世界のデニム産業に新風を吹き込む。

「井原デニムストア」は、2010年より、井原駅の構内で運営しているアンテナショップです。「井原デニム」の魅力の発信拠点として、店内では井原産デニムを使用したジーンズ、スーツ、着物、バッグなど、多彩なデニム製品を販売しています。

「日本のデニムの聖地」である井原市は、江戸時代中期より綿花栽培が盛んになり、藍の伝来とともに藍染織物の産地となりました。明治・大正時代には、「備中小倉」という厚地の藍染綿織物が生産されるようになり、それが学生服や作業服に使用されると、海外にも輸出されるまでに発展します。その一つに「裏白」と呼ばれる表面が藍色、裏面が白色の厚地織物があります。これこそが、和製デニムのルーツであり、「井原デニム」が誕生するきっかけとなった織物です。

終戦後は、米国文化の流入と共に、「裏白」をもとにしたデニム生地によるジーンズの生産が開始。一時井原では年間1500万本、国内生産のおよそ7割を井原で生産するまでに発展します。「裏白」から長年受け継がれた和製デニムの製造技術は、今日の井原デニムの世界的な評価に繋がっています。

現在では、旧式織機を使って織られた風合いの良いセルピッチデニムをはじめ、染料や原料、機能性にこだわったデニムなど、無限の可能性を創造し続けている井原デニム。古くから続く、確かな技術の継承と創意工夫により、欧米をはじめとする世界からも注目を集めています。



「井原デニム」は、地域ブランドとして2019年2月に国の地域団体商標に登録されました。井原デニム審議会が認定した商品にのみ「D#」のロゴマークの下げ札が付けられています。「D」はデニム (Denim) の「D」、「#」は井原の「井」。「#」には音楽記号の半音上げという意味から、より高いクオリティー (品質) のデニムであるという意味を含んでいます。最近では、兵庫県豊岡市の「豊岡靴」とのコラボ商品を展開するなど、その魅力は年々高まっています。